

江戸楽のすすめ・生きる

江戸の良さを見なおす会

おひろめしぐさ

和城伊勢

新風舎のコミュニティサイト「クリエイターズワールド」に『百人の読者』というコラムがございます。

「江戸しぐさ一夜一話」・「江戸しぐさ講」が、どのような評価をいただけるか、参加させていただきました。読者の方たちは、やはりレベルがお高いようでございまして、本音のご批評を頂戴いたしました。やっと、勇気が湧いてまいりました。皆様ありがとうございます。

さて、江戸しぐさの第一歩「往来しぐさ（稚児のシツケ）」の一部分の傘かたげ・肩ひき・腰うかせ・仁王立ち・うかつあやまり等が公共広告機構（ＡＣ）でとりあげていただき、駅構内・電車の吊り広告等でご覧になった方もいらっしゃるかと思います。現在は、テレビなどでも、そのポスターの画像しぐさを伝えてくださっております。都知事もオリピックは江戸しぐさで招致……と応援してくださっておりますので、やっと伝わったようでございますので、悠久に世の中に伝え残そうと目指しておりますものの、第三弾を

公開させていただきます。

「江戸の良さを見なおす会」は、江戸時代の江戸町衆の江戸講の考え方を踏襲させて、現代風にアレンジした会なのです。ですから、すべて江戸風となっています。故芝さんは江戸ゆかりのお生まれの方なので、江戸講の幼児体験・研究等からヒントを得て、多くの方たちに問題提起をして、練成を続けてきました。そのことに賛成する人・否定する人も一緒になって、なんだ！ かんた！ と何十年間も無駄をしていたようにも思います。でも愛の鞭なのです。最近やっと解りかけてきました。

一つのこと学ぶにしても、現代式の考え方・江戸式の考え方を比較してのことなので、中々、理解されないで、誤解のまま会を去っていった人がほとんどでございました。実践・伝承しようと学び習う方、江戸的な考えをお持ちの方、江戸が好きなたち、自分の思い込みの江戸論をお持ちの人、てんでんばらばらの人達が輪になって今日まで歩んで参りました。当然といえば当然のことなのですが……最近、「江戸時代は士農工商でなかった」と、教科書が書きかえられているとか……江戸を語る上で、少し楽になりそうですね！

江戸時代には「すべての江戸講は、人を制すべからず」というお触れがありましたそう

で、江戸講は自由で民主的な会合であり、会則などの一切の決まり、規則のようなものを持っていないかったようでございます。人々は自由闊達に生活をエンジョイしていたそうです。また合理的な教育システムを持ち、人間関係を円滑にする「講」の役割は、現代にこそ、見直されてもよいのではないのでしょうか？

さて、江戸の講は、江戸町衆の生活の仕組みとして、みんな、なんらかの講に入ることになっていたそうでございます。江戸期になると講の数は爆発的にふえ、天保（一八四一年）には四百余りを上回ったという記録があるようです。これは、当時の人口から見れば、今日の文化サークルに匹敵する盛況とみるべきでしょう。

全国的な宗教的色彩の講としては、仏教関係では阿弥陀講、観音講、子安講、地藏講、大師講、念仏講、薬師講などが、また、古くからの宮座の民間信仰に端を発すると思われる講としては、伊勢神宮を中心にした伊勢講や特定の山岳を登拝し、家内安全と家業繁栄を祈願する愛宕講、稲荷講、御岳講、鹿島講等あり、今日まで受け継がれているものも少なくないようです。

これらの講のほかに、江戸時代には、庚申講、蚕神講、水神講、田の神講、地神講、天神講、龍神講、月待講、精神講、また、現在でも残っている、御店若衆講などがあったそうです。

私の家（館山）でも、念仏講が脈々と継続しています。家の人々が亡くなられると、その日から、七を節目に五十回忌まで親戚（地域）同士で念仏を唱え、先祖の霊をおみおくりします。昔は、その日はごちそうをたくさん作りあって、皆さんでいただいたそうです。いまも、和菓子・お豆の煮物・香の物等をいただきながら、いろいろの問題についても語り合って、おごそかな一夜を過ごしています。この奥ゆかしい風習との出会いは、江戸を見直すうえで、とても参考になっています。伊戸のみなさまありがとうございます。

ところで、「江戸の良さを見なおす会」は、江戸の町衆の講をモデルにしていますので、ツアーじゃございません。もちろん、ネズミ講の講とも全然ちがいます。「江戸の講にはおよびもないが、せめて入りたや ヤブの講」の講です。つまり、江戸の超・高品位サロンです。平たくいえば「社会」です。

もっと下センに言えば、「江戸の世間様に認められたい」「江戸講中のお仲間入りがしたい」と望み、みごと「仲間」になって、サロンの一席を持った人々の「座」が講です。

「講中」は、サロンに正式の座を持った人です。つまりメンバーです。

ついでに、「江戸生まれ」「江戸育ち」「江戸住まい」はそれぞれ意味などが違います。ただし、江戸しぐさは、それらとは全く無関係です。

もう一つオマケ。肩引き・腰浮かし・仁王立ちなどは、江戸しぐさではございません。

正しくは、それらは、江戸の稚児ちごのシツケです。つまり「江戸の何々のシツケ」とか「江戸の何々の身ごなし」と言った具合に、「江戸の」と「の」の字がはいります。このほうは、「仕科」「仕種」などの字を当てます。

私どものは、「の」のはいらぬ「江戸しぐさ」です。混同なさらぬでください。

さて、講はテダテ（構と書いていたそうです）、手立て、手段、方法、すべ、策略です。つまり、「いかに……すべきか」を学んだり、仕事や技術の秘訣を知るサークル、それが講でした。もちろん、「講」は文字から類推すれば、仏典を講ずるための集会であったと思われます（これらの良さを見直しているだけで宗教とは違いますので誤解しないでください）。

このように、江戸講は（徳川政権の仏教奨励政策の一環でありましたので）自分自身へのお祈りの場でもありまして、こうしなければ、気がすまない！ という方たちによって構成されています。つまり会のレポートは神社・仏閣のお礼のお役目を果たしてありました。レポート（原稿）も各自持ちです。会費はお賽銭の役割（通信費）と考えていただけましたら、この会の趣旨がお分かりになることと思えます。当然、会費の催促はいたしません。このようなことを実践していますので、懐疑に思う方もおありのようで、いつになっても正会員が増えませんでした。最初からこのような会ですと、お知らせしなかつた趣旨

はございますが、芝さんは「江戸しぐさ」は、察することだ！と定義していました。修行の一段階でもあったのです。

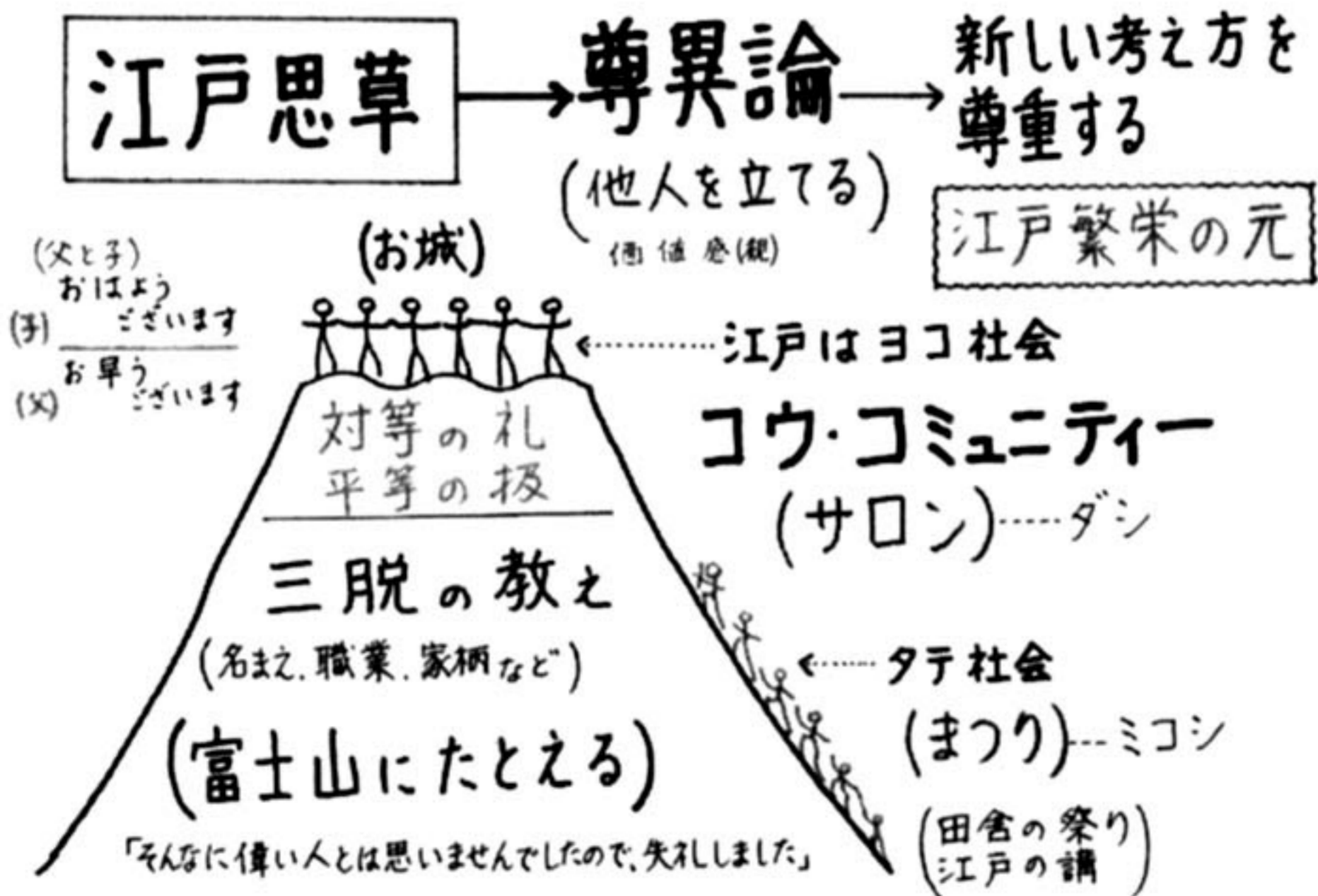
なにしろ、八〇八項目をパスしないと、江戸っ子にはなれなかったそうですので、うなずけますね！「講に出てきなさい！」という言葉を発する人もいらっしやいません。自分の「座」を空けることは、考えられなかったのです。空けるときは、代役をたてたそうです。勿論、講師になる人（芝さん）も御代なしでご奉仕なさってくださいっております。このような人々が世の中に存在したことは、他には無いといっても過言ではないと思いますが、いかがでしょうか？

なぜ、今江戸なのか？現代が、あまりにも自分に関係ないことに無関心で、世の中の人たちともあまり関わりのない寂しい人生を送っていらっしやる方が多いように思えるのです。そんな人たち（自分も含めて）と心の交流ができたなら……という思いもこめて、江戸の良さを見なおす会の講元（連絡室）をお引き受けいたしました。昭和四十九年のはじめの一步から約三十二年たちました。その記録を残すことが、私の役目と言いつ残した芝さんのご意思を継いで、定年を機会に二冊ほど、共同自費出版させていただきました。素人の発想なので、みなさんに笑われながらの工程でございました。レポートは、江戸っ子の心意気が網羅した立派なものばかりでございますので、心静かに読んでいただけましたら

仕合せでございます。

江戸しぐさとは、つまり二百年以上もの長い間に育まれた江戸者の経験・知識・知恵・行動などの集積の昇華したものだ。思草（思案、思想、思慮、意思）・志草（志望、志気、志願）・支草（ささえる）の三点から成り立っています。草は、行為・行動とか実行のこと。

頭で考えるだけでなく（読むだけでなく）実際に体をうごかしてのしぐさつまり、実践することが江戸しぐさなのです。（立派な文字を並べただけでは江戸しぐさは語れません）



このように、しぐさは神経の問題、考えかたの問題、ですから「ソフトの問題」となります。また言い換えれば、人間関係の内側からの、心のありようをいうようでございます。戦争のない平和の中で生まれ・育まれたしぐさは山ほどあります。一度、温故知新をなさってみてはいかがでしょう？　そして少しでも、その道しるべになれば幸いです、ここまで生かされてきました甲斐がございます。

江戸では、青二才は「もののあわれを知らない」から、乱暴狼藉（破壊活動）が平気でできるといって、若者を戒めました。これは「出る釘をたたく」のではなく、世の中を変えるのに暴力はいけないといっていたわけだそうで、やむにやまれぬことがあれば、若者にさせず、「老人」が先頭に立ててというのが、江戸の教えであったそうです。

「還暦（六十）を過ぎたらフトンの上で死のうと思っってはならぬ」老人に勇気を強要したのだそうです。でも、若い方、オヤジ敲きはダメですよ！　次元がちがいます。

江戸しぐさの集大成を江戸楽（音曲を楽しむように生きること）と言うようでございますので、いままでの、タイトルを一新いたしまして、『江戸楽のすすめ・生きる』とさせていただきますいただきました。毎日、こころを洗うような気分で楽しく過ごしましょう！

なお、これらのことは、いままでの経験から、最初に申しあげたほうが、難解なことも、

より早くご理解いただけるのでは？　と思い立ちました。釈迦に説法ですがお許しくださいませ（最初に誤ったほうが江戸っ子とか……）。

ある若者から、「江戸しぐさ講は、すばらしかった！」こんどは、一步踏み出せない人たちに生きる勇気をあたえるようなものを一発やっってください！　と激励ともいえるメッセージをいただきました。芝さんより、heisei生まれの kimi に、という残し文も、ございます。世の中にはたいした？　人間は多くはいらっしゃらないように思いますので、勇気を持って、何でもいいから勇気をもってトライしてみることから始めましょう！　自分探しなんてやめましょう！　そんなものは、ありえないように思える！　と四十三年間、会社人間からの贈る言葉でございます。おかげさまで健康に恵まれて、生きるために働き（傍^{はた}を楽にすると教わりました）ました。ご奉仕もさせていただきました。この割合も、江戸しぐさからの伝授でございました。

江戸しぐさ（心シリーズ第三弾）、手書きと活字と……／あおいは、ほろんだ／おじいさんは、毎日、ミソ汁と一コの卵がほしい／おばあさんの自殺が、世界で一番多い国は、どこ／エスペランティストの精神で……／呱呱の月例会報告／駒形福歩きのこと／頭遺祖有路久／東京だより38／江戸っ子の見た芝居／通人とはどんなものか／夏は暑くてあたり

まえ／江戸料理（江戸じる粉、江戸びっくり汁、江戸料理自習会、江戸料理基本）／魚拓の話／橋本太郎江戸付く／指南番のこし文／江戸の見取り学／江戸しぐさと田舎しぐさ／「江戸しぐさ22考」の台本／大江戸チゴの心の親（ボタンさまの見習いをいただきます）／Hey-say 生まれのKey-meに！ 等公開させていただきませう。この会は営利活動・政治・宗教等とは無関係でございます。百人の読者からのご希望も取り入れさせていただきます。ありがとうございました。

この本は、「江戸の良さを見なおす会」の記録の公開が趣旨になっておりますので、読味期限がきたとか、原価償却がきているとか、野暮なお考えはなさらないでくださいませ。この記録をとおして、日本人の良さを再発見していただけたら、故芝さんの江戸っ子の心意気が永遠に生きることと存じます。会の記録は、まだまだ続きがございます。どのようなカタチで後世にバトンタッチできるか？ ご提案・ご指導・ご支援賜りたくお願い申し上げます。

二〇〇七年一月二十二日

江戸楽のすすめ・生きる 目次

おひろめしぐさ

和城伊勢

3

1 手書きと活字と……

山城美子

20

2 あおいは、ほろんだ

23

3 おじいさんは、毎日、ミソ汁と一コの卵がほしい

29

4 おばあさんの自殺が、世界で一番多い国は、どこ

31

5 エスペランティストの精神で……

伊藤寿子

33

6 呱呱の月例会報告

白鳥光子

37

7 駒形福歩きのこと

大橋誠子

41

8 頭遺祖有路久

右裸子真 45

9 東京だより38

48

10 江戸ッ子の見た芝居

珍眠 52

11 通人とはどんなものか

珍眠 55

12 夏は暑くてあたりまえ

珍眠 59

13 江戸じる粉

福本佐智子 62

14 江戸びっくり汁

福本佐智子 66

15 東京一人暮らしのための江戸料理自習会 亭主舌代

城詰音税卓 70

16 江戸料理基本

城詰音税卓

74

17 魚拓の話 その一回

本原冬虹

80

18 橋本太郎江戸付く

是切拝土

85

19 指南番のこし文 第二回その一

92

20 指南番のこし文 第二回その二

98

21 指南番のこし文 第二回その三

103

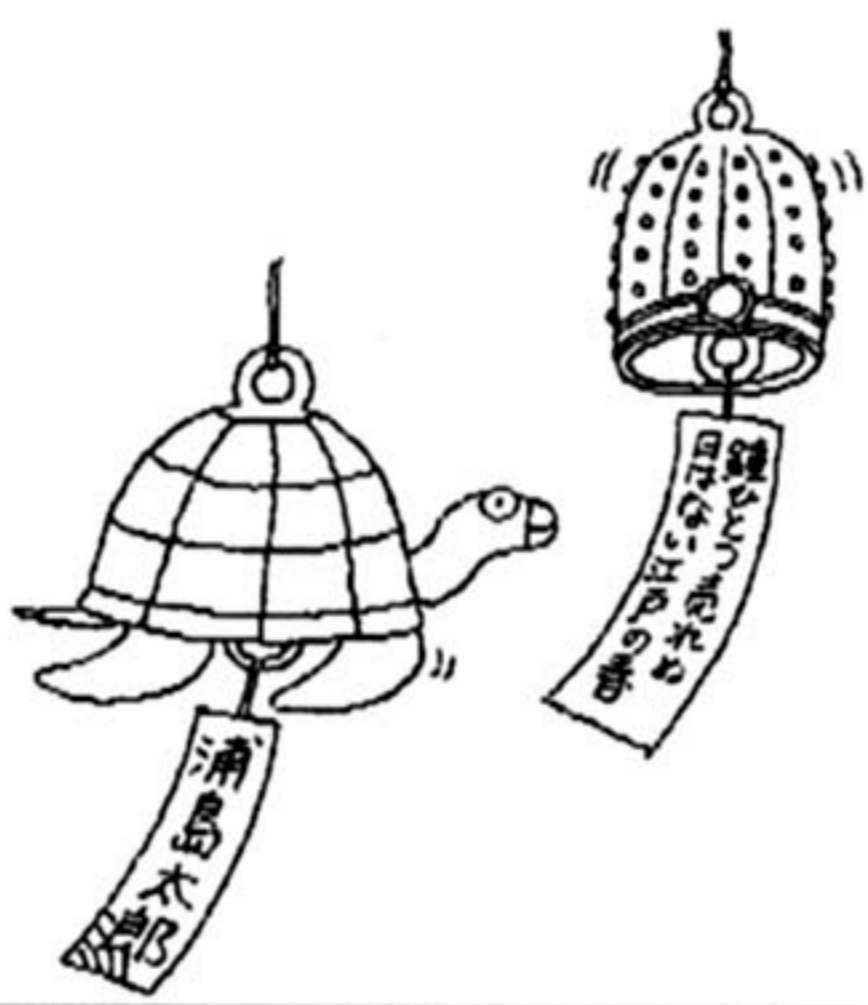
22 指南番のこし文 第二回その四

109

23 江戸の見取学 (FIRST STEP attendance の巻)

115

| | | |
|----|--|-----|
| 24 | 江戸しぐさと田舎しぐさ | 120 |
| 25 | 「江戸しぐさ22考」の台本 | 125 |
| 26 | 大江戸チゴの心の親 佐藤亜砂子 | 130 |
| 27 | Hey-say 生まれの Key-me じー 講師のメッセージ うらしま・たろう | 135 |
| | おしまい | 148 |
| | あとひきしぐさ 和城伊勢 | 151 |



江戸しぐさ（心シリーズ第三弾）

江戸楽のすすめ・生きる

そういう江戸人になるために……

■リポート『江戸の心』の編集について

1 手書きと活字と……

山城美子

『田舎者は活字に弱く、江戸ッ子は手書きに弱い』というコトバが、大正末期から、昭和初期にかけて流行したそうです。

時は関東大震災後の混乱期から、アメリカは、一九二九年、かのウォール街の株価大暴落に端を発した世界的大恐慌の余波を受けた時代……。

各会社の宣伝部（当時は、広告係とか、チンドン係、売り口上担当者などと呼ぶ人々や会社が多かったそうですが……）は、自社の製品を、なんとかして早く売りさばこうと、それこそ必死の努力を続けたという話です。

この田舎ッペイ云々、江戸ッ子云々というコトバは、そういう各企業のチンドン係や、広告・宣伝の仕事をした人たちの間で、ひそかに囁かれ、後に一般の東京の人たちの間にも、意外に流行したコトバであったようです。

大人の流行は、すぐ、稚児の世界にも飛び火する……というのは、ご存知の江戸寺小屋の、子を持つ親に対する戒めの言葉のようですが、はたして、東京の子どもたちの間でも、

このコトバが、さかんに流行したようです。

この流行の功罪の、まず、「功」のほうを考えれば、このコトバの流行の結果、東京の子どもたちが、活字よりも自分たち仲間の書いた綴方つづりかた（今の作文に当たるそうです）や手紙を大切にするという、ある意味では自主性が生まれ、自分の感想や意見を、壁新聞やノートにドンドン書くようになったり、またそうして書かれた仲間の声を、心にとめるという、いわば民主主義の第一歩の萌芽ほうがが見られたことでしょう。

お上からの、（宛行扶持あてがいぶち）？ の、活字で立派に印刷された教科書や参考書よりも、自分たちの学校の先生方が、ガリ版で書いてくださった副読本のほうを大切にするという気運が高まったことでしょう。

罪を考えると……

一方、「罪」のほうを考えると、東京の子どもたちの間に、「われわれは、田舎ッペイとは違うんだ」という、下手へたをすると、悪い意味のエリート意識が発生したこと……。

そして、やがて、この子どもたちが成長して、人の子の親になり、また、社会人として、メーカーの宣伝関係や出版関係の仕事にタッチした時、田舎者には、外見だけが、一見、立派に見える印刷物で包んだ物を押しつけるという風ふう？ な、仕来りしきたの前例をつくる先輩・上役になってしまいかもしれないことや、さらに、「手で、コツコツ書いたものより、活字でスカット印刷したもののほうが良いに決まっている」という、恐ろしい人間機械？

立ち読みページはここで終わります。

お立ち寄りありがとうございました。

またのご利用をお待ちしております。



新風舎
立ち読み横丁